



しろいしレイン坊

白石市の取組紹介

Q1 接続期カリキュラムの活用についていつから取り組んでいますか？

平成24年から取り組んでいます。令和2年3月に改訂版を作成し、令和4年度に全体計画とカリキュラム暫定版を示し実践に入りました。令和5年度は、架け橋期のカリキュラムの全体計画をアップデートし、その他にモデル中学校区のブロックで、小学校3年生から中学校3年生までの学びの連続性を捉えた全体構想を作成し、令和6年度は資料集も作成し現在、実践・検証中です。

Q2 誰がどのようにしてカリキュラムを作っているのですか？

令和4年度に架け橋プログラム運営会議を組織し、市内公立保育園・幼稚園長と小学校の校長、実務担当者が代表委員となり基本カリキュラムを作成しました。令和5年度は実践と振り返りを行い、さらに一つの中学校区をモデル地区として小学校3年生から中学校3年生までの学びの連続性を捉えた全体構想を作成しました。令和6年度は5歳児担任(公立、私立)と小学校1年生担任がカリキュラム編集委員として実践につながる資料を作成しました。

Q3 活用に当たって配慮していることはどんなことですか？

各学校・園に開発会議、運営会議の委員または、カリキュラム作成委員がいることから、内容が周知されるほか、理解研修や双方の体験研修、または、振り返りの会などを行う中で互いの顔が見える関係づくりに配慮してきました。特に双方での一日体験研修後に行う振り返りの会では、互いの感想や疑問点などを出し合い、子供理解に役立ちました。その後の保育実践や、授業に大いに参考になるので、振り返りの意見交換は重要と考えております。

Q4 5歳児・1年生担任からはどのような声が寄せられていますか？

 一日保育体験・小学校体験研修を通しての感想を聞かせてください。



園での環境の構成への配慮点や工夫点を知ることができた。特に環境から子供たちの活動が広がっていくようにしているところは、接続にあたって小学校側も意識すべき内容だと思いました。(小学校教諭：1年生担任)



子供の興味・関心から自主的に活動を行わせ、できたことを認めて褒めることにより、子供が自信を高めていることは小学校でも大切だと考えさせられました。(小学校教諭)



小学校1年生の4月、5月は、授業時間の配分を考慮して活動を行い、楽しく集中できる工夫をするなど、子供たちに寄り添う姿勢を意識して授業をしていることが分かりました。(保育園保育士)

【カリキュラム作成のプロセス】



相互理解 幼保小の関係構築

- 運営会議（合同会議）による取組内容の協議
（2か月に1回程度で開催、年6回程度） ⇨ 相互理解のための研修企画
- 架け橋プログラム理解研修（大学教授等講話、文科省幼児教育課調査官講話）
- 一日保育体験（小学校教諭が園へ） 一日小学校体験（保育士等が小学校へ）
事後合同研修会の実施（各々2回、計4回）
- 保育参観（スキルアップ研修提案保育、p4c実践）、授業参観（スタートカリキュラムの実践、幼保小交流活動（事前・事後も）、p4c実践）

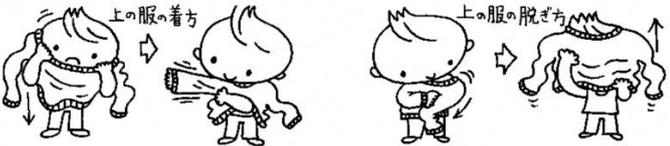
カリキュラムの作成・実践・改善

- 接続カリキュラム理解研修会、振り返りの会の実施
（5歳児担当者、小学校1年生担任等は悉皆）
 - ・実践に向けた趣旨や取組の説明、実践の振り返り、幼保小での情報交換
⇨ 実践事例についてワークショップを行う
- 架け橋期全体計画の作成（目指す子供の姿、ねらい・育みたい力、環境の構成、支援・援助、家庭との連携等の可視化）
 - ・本市全体の基本モデルとして、運営会議メンバーを中心に作成
⇨ 開発会議で協議、改善・更新 ⇨ 各園・小学校での共有資料に
- 学びの連続性の全体構想図の作成（小学校3年生～中学校3年生）
 - ・中学校区で作成（運営会議のメンバー） ⇨ 「学び・人・生活をつなぐ」の共通の視点で
- アプローチ期のカリキュラム（基本モデル）実践資料集の作成
 - ・本市基本モデルを基に、園での実践内容をまとめ、資料集として幼保小で累積、共有資料に
⇨ 小学校への接続

幼児・児童の交流・学校体験

- モデル園・モデル小学校での交流活動実践
 - ⇨ 交流活動当日や事前、事後の授業を参観する機会として提供する
- 市内各小学校と幼保との交流活動、幼保同士の交流活動に展開
 - ⇨ 施設間で連絡調整し、交流活動を実施
- 白石市小学校見学会の実施（親子等で入学予定の小学校へ）
 - ⇨ 市内各小学校で同日開催 小学校見学、在校生との交流を行う

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を明記しながら、活動や遊びの中に環境構成の工夫を入れて誰もが理解しやすい指導案にしています。

生活をつなぐ	健康な心と体 自立心 思考力の芽生え	
活動名	衣服の着脱をしよう	
ねらい	◎自分で着脱できるようになる。 ◎身だしなみを自分で整えようとする。	
環境構成	◆客観的に自分の姿が分かるように、鏡を準備する。 ◆着脱が分かりやすいように、絵表示などを掲示する。  ◆着替えの時間やスペースを確保する。	
幼児の活動	保育者の配慮・援助	
○自分で着脱をする。 ○身に着けた衣服は、整っているかを確認する。 ・下着が出ていないか。 ・裏返しや前後ろが逆になっていないか。 ・靴下は、きちんと履けているか。 ○登園したら、自分の持ち物の始末をする。 ・決められたロッカーに片付ける。 ・上着や帽子などをフックにかける。 ・必要に応じて着替えをする。	◇自分で着脱ができるように、脱ぎ方や着方について丁寧に知らせていく。  ◇客観的に自分の姿がわかるように、鏡に映して点検できるようにする。 ◇できた時は、大いに褒めたり、認めたりして自信をもてるようにする。 ◇持ち物の始末ができたかを確認する。できていないことがある時は、声掛けをしながら習慣づくようにしていく。 ◇衣服の汚れに気づいたり、気温などに合わせて調節したりできるように伝えていく。	

育みたいか

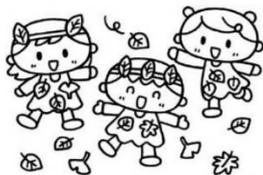
……の囲みは幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の項目です。

人をつなぐ

社会生活との関わり 言葉による伝え合い

活動名	ハロー！ワーク(ジョブ)	
ねらい	<p>◎いろいろな仕事があることを知り、興味をもつ。</p> <p>◎将来の夢について、考えてみようとする。</p>	
環境構成	<p>◆いろいろな仕事があることを、絵本やパネルシアターなどを活用し、知らせる。</p> <p>◆いろいろな仕事に興味をもてるように、仕事に関連した写真やイラスト、実物などを準備したり、掲示したりする。</p> <p>◆身近な地域の職場見学をさせてもらったり、仕事内容を教えてもらったりすることで、仕事への興味をもてるようにする。</p> 	
幼児の活動	保育者の配慮・援助	
<p>○絵本やパネルシアターを見る。</p> <p>○どんな仕事があるのか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな仕事があるか ・家族の仕事について ・大きくなったら何になりたいか など <p>○仕事クイズをする。</p>  <p>いろんな帽子があるね。 どんな仕事かな？ 考えてみよう！</p>	<p>◇絵本を読んだり、パネルシアターを見せたりするときには、幼児の表情を見ながら、ゆったりと話をする。</p> <p>◇絵本やパネルシアターの後に幼児の声に耳を傾け、気づきに共感する。</p> <p>◇幼児から出た職業を書き出すことでいろいろな仕事があることを共有していく。</p> <p>◇仕事内容についても興味をもてるように、どんなことをするのか考えられる時間を設けていく。</p> <p>◇家族がどんな仕事をしているのか聞いてみるよう話をし、保護者にも家族の仕事についても話をしてもらえるように投げかける。</p> <p>◇仕事クイズなどをしていろいろな仕事に興味・関心がもてるようにしていく。</p>	

活動名	秋の自然物で遊ぼう	
ねらい	◎自然物のいろいろな形 ◎自然物を使って、いろいろな	環境構成は、幼児の活動の展開にに応じて、随時変化（追加したり、取り除いたりする）していきます。その際、配慮や援助も変化していきます。
環境構成	◆園庭や園外保育で拾ってきた木の実、草の実、落ち葉、小枝などを分類して、箱などに入れておく。 ◆自然物を調べられるように、図鑑を置いておく。 ◆調べて分かった葉や実の名前を紙に書けるように紙やペンを用意しておく。 ◆カラーポリ袋、リボン、毛糸、両面テープ、ラピーテープ、セロハンテープ、ボンド、紙コップ、空き容器などの材料を用意する。 ◆幼児が遊びの中で、使いたい材料をその都度用意する。	
幼 児 の 活 動	保 育 者 の 配 慮 ・ 援 助	
○葉や木の実を集めて遊ぶ。 ・拾ってきたものを分類する。 ・図鑑を見て調べる。 ○葉や木の実を使って、いろいろな物を作る。 ・葉っぱの服を作る。 ・楽器を作る。 ・装飾を作る。など ○制作物をみんなで見合う。 ・着てみる。 ・鳴らしてみる。 ・飾ってみる。	◇形の面白さや色の違いなど、幼児の気づきや発見に耳を傾けたり、調べたりしたことをみんなで共有していく。 ◇作り方や並べ方、貼り方など、工夫している所を具体的に認め、意欲を高めていくようにする。 ◇悩んでいる幼児には、アイデアがわくように思いを引き出していく。 ◇制作物を見せ合うために、どうしたらよいか相談して具体的に決めていく。 ◇作品を見合う場面を作り、お互いの作品を認め合うようにする。 ◇見ている幼児に、どうだったか感想を聞いたり、これからどんなふうにして遊んでいくか考えたりする。	



実践資料集の事例

学びをつなぐ 子どもの姿

①

ねがい

活動名 すごろく遊びをしよう

② ねらい

③ 環境構成

④ 保育者の配慮・援助

⑤ 幼児教育を通して育まれた10の姿

⑥ 小学校の教科等における資質・能力とのつながり

(算数科)

- ・ものの数に着目し、具体物や図などを用いて数の大きさの比べ方や数え方を考える力
- ・身の回りにもあるものの形に着目し、箱の形をしたものを観察したり、構成したり、分解したりして表現する力

⑦ 環境を生かした幼児の活動

○保育士手作りのすごろくでグループ対抗のすごろくをして遊ぶ
・遊び方やすごろくの面白さを知る。

○すごろくを作る
・p4cでどんなマスがあるか楽しいか意見を出し合う。
・2人組になり、どのマスを作るか相談し一緒に書く。

○遊んでみよう
・友達とマス配置する。
・グループごとに話し合い、役割分担を決め、全体で発表する。(リーダー、サイコロを振る人、駒を進める人など)
・各グループのリーダーが、じゃんけんでは遊ぶ順番を決める。
・サイコロの目や進むマスを数えたり、マスの文章を読んだりしながらルールに従って遊ぶ。
(1回休み、3マス進む、好きな動物のまねをする、こま回しをする、縄跳びをする等。)

○振り返りをする
・グループごとに振り返りをする。
・グループから出た意見を共有し、クラス全体で振り返りをする。

「6秒木になる」マスにとまったグループ

コマとサイコロが小さくてみえにくかった。



○本市基本モデルとして指導案型のアプローチ期のカリキュラムを作成しましたが、各園での子供の姿や、クラスの数等、置かれている状況は様々なことから、具体的な実践の方法が違ってきます。そこで、園で実践した内容のイメージが共有化できるようにするため、参考事例として今年度の実践をまとめ、資料集として活用することにしました。(令和6年度より実施)

○資料集の構成(一つの実践事例を見開きで2ページにまとめる:①~⑥は左頁)

- ①活動に対する子供の姿と保育者の願い
- ②ねらい
- ③環境の構成
- ④保育者の配慮・援助
- ⑤幼児教育を通して育まれた10の姿
⇒ 活動を通して何が育まれたか
- ⑥小学校の教科等における資質・能力とのつながり
⇒ 小学校の教科等における資質・能力のどこにつながっていくのか
- ⑦環境を生かした幼児の活動(右頁)

○「環境を生かした幼児の活動」は、ドキュメンテーション化してその活動がどのように展開していったのか、写真や子供の言葉で表現してより具体的にイメージを共有できるように表記しました。

○毎年実践記録として累積していきます。

各保育園や幼稚園で経験している共通の遊び等を保育園や幼稚園、小学校で共有することにより、小学校入学後に“みんなが知っている歌や遊び”を取り入れた活動がしやすくなり、児童の安心感や意欲的に取り組む姿につながっています。

保育園幼稚園共通のお遊び

	題名	教材選択の理由
歌	友だち讃歌	・いろいろな地域の保育園や幼稚園から入学する子どもたち。国や地域が違っても同じ仲間であだちの意識が芽生える曲。
	春がきたんだ	・春が来たうれしさと1年生になる期待が、リズムカルな曲調に表現されており、うきうきした気持ちで楽しく歌える。
	一年生マーチ	・新しいランドセルで晴れ晴れとした表情で登校するイメージがもてる曲である。元気にリズムカルに口ずさんでほしい。
手あそび	グー、チョキ、パー	・グーチョキパーを両手で示しながら、双方の手で何が作れるかそれぞれ見立てた形をイメージして楽しむ。
	お寺のおしょうさん	・友達と向き合っ、自分の手と友達の手を交互にテンポよく触り歌が進む。最後にはジャンケンで勝負が決まる。
	大きくなったらなんになろう	・様々な職業が出てくる楽しさや、一緒に歌詞を考え、作っていく面白さがある手あそびなのでみんなで楽しめる。
仲間づくり	ジャンケン列車	・ジャンケンが分かればだれでも一緒に遊べる。 ・勝てば先頭になったりチャンピオンになったりできる。 ・いろいろな友だちと繋がったり関わったりできる。
	おちゃをのみにきてください	・いろいろな友達と仲良くなりたと思った時に、簡単なルールで歌を歌いながら遊びを進められる。出会った友達と手をつなぎ次々かわっていくことで遊びを楽しむことができる。
	ひっこし鬼	・指示された言葉をよく聞いてその場所に逃げる、という簡単なルールの鬼あそびである。指示と違う場所に行ったり逃げるのが遅いと捕まってしまう。
お話	へったれ嫁さん	・各地に伝わる民話である。この話は白石に伝わる話。お嫁さんの悩みである「大きなおなら」が人々に役立ち、喜ばれるという互いの個性や良さに気づくお話である。
	もちもちの木	・主人公まめたの勇気と葛藤のお話。弱虫でねしょんべんのまめたが大好きなおじいさんを助けたい一心で頑張る姿に感動を感じる。
	はなさき山	・困っている人に寄り添う、優しくする。助けてあげる。自分がされてうれしいことを人にもやってあげよう、そんな気持ちにさせてくれる絵本。
体操	白石うーめん体操	・白石の名産品である白石温麺が題材になった体操である。歌詞の内容が動きを誘発させてくれる。口ずさみながら楽しく動ける体操。

※楽譜等は資料編参照

小学校で日常的に作成されている週案の様式で1～4週目まで作成しています。留意点には、幼保からのつながりを意識した授業のポイントが具体的に記載されています。

週案タイプ モデルプラン

第1週 令和5年4月10日(月)～4月14日(金)

【今週のねらい】 『はじめまして 学校』 1年生になったことを喜び、楽しく過ごすことができるようにする。		10日(月)	11日(火)	12日(水)	13日(木)	14日(金)
行事等			入学式	幼保で歌った歌や手遊びで一日をスタート		
1				音楽 手遊びをしよう <small>うたっておどってなかよくならう</small>	音楽 手遊びをしよう <small>うたっておどってなかよくならう</small>	音楽 手遊びをしよう <small>うたっておどってなかよくならう</small>
2	<p>時数のカウントの目安として時間を区切ってはいるが、授業時間の区切りで活動を区切らずに、子供たちの思いを拾い上げながらなめらかに活動をつないでいくようにする。</p> <p>例えば・・・ (12日)先生と一緒に学校の中を歩きながら、その場所の使い方を覚えていく。 (13日)言葉のリズムを楽しんだ後で、「友達の名前を知りたいな」「名前を教え合おう」「名前を書いてみよう」「すきなものの絵も描いて教えたいな」と子供の思いをつないでいく。</p>		学活 元気な返事やあいさつ 学習用具の出し入れ プリントのもらい方	国語 さあはじめよう 体を動かして言葉のリズムを楽しもう	国語 さあはじめよう 体を動かして言葉のリズムを楽しもう	国語 さあはじめよう 体を動かして言葉のリズムを楽しもう
3		学活 1年生になったよ トイレ・靴箱・ロッカーの使い方	国語 さあはじめよう 体を動かして言葉のリズムを楽しもう よろしくね 名前を書いてみよう 名前を教え合おう	道徳 ようこそ1年生 楽しみなことを話そう	体育 体操服に着替えよう 腕いだねをたたもう	体育 校庭で遊ぼう ならびっこ 遊具遊び
4		生活 がっこうのことがしりたいな 学校の日を知ろう 先生と学校の中を歩いてみよう	図工 すきなもののいっばい すきなものの絵を描いて 名札をつくろう	生活 作った名札を見せ合っ て名前を教え合おう	生活 校庭を探検しよう	生活 校庭を探検しよう
5		生活 がっこうにいこう 登下校時のあいさつ・ 交通安全のルール	生活 がっこうにいこう 登下校時のあいさつ・ 交通安全のルール	道徳 あいさつ 登下校時のあいさつ・ 交通安全のルール	道徳 あいさつ 登下校時のあいさつ・ 交通安全のルール	道徳 あいさつ 登下校時のあいさつ・ 交通安全のルール
6		学活 周りの用意の仕方・コース ごとに整列・下校指導	学活 周りの用意の仕方・コース ごとに整列・下校指導	学活 周りの用意の仕方・コース ごとに整列・下校指導	学活 周りの用意の仕方・コース ごとに整列・下校指導	学活 周りの用意の仕方・コース ごとに整列・下校指導
配当 時数			生活1.5 音楽0.5 学活2	生活1 音楽0.5 学活0.5 国語1.5 図工0.5	生活0.5 音楽0.5 学活0.5 国語0.5 道徳1 体育1	

【幼保からのつながりを意識した授業のポイント】

- 生活科を中心に総合的・関連的な指導を行う。
 - 時間の枠で区切ってはいるが、実際の活動では子供たちの思いを拾い上げながらなめらかに活動をつないでいくようにする。
 - 児童が園で経験したことを話し、伝え合いながら活動を広げていくようにする。
 - 1時間目の音楽では幼稚園や保育園で歌った歌や手遊びを取り入れ、安心して学校生活の一日のスタートが切れるようにする。
 - 複数学級がある学校では、1時間目の音楽を学年全体での活動として設定することで、友達づくりに対する不安を解消するとともに、担任だけでなくたくさんの先生が見守っていくことを伝え安心させる。(特別支援担当、7学年、支援員も1時間目の活動に加わるようにする)
 - 入学式の翌日は、子供たちは不安でいっぱいである。「学校は楽しい」「学校は安全」と思えるような活動を工夫する。
 - 教室に絵本のコーナーや自由遊びのスペースを作り、新しい環境の中でも落ち着いて過ごすことができるようにする。
- ➡ 1年生はゼロからのスタートではない。就学前に育ってきた姿を踏まえた指導を工夫していく。



【幼保からのつながりを意識した授業のポイント】

- 生活科を中心に総合的・関連的な指導を行う。
- 第2週も1時間目に音楽を設定している。幼稚園や保育園で歌った歌や手遊びを取り入れたり、一日の始まり方を同じにしたりすることで安心できるようにする。
- 1時間目の音楽の時間を使って、幼稚園や保育園で歌った「1年生マーチ」を歌い、1年生を迎える会で発表することもできる。
- 複数学級ある学校では、この週の1時間目も学年合同にすることで、現在の学級の友達に慣れるまで、幼稚園・保育園の友達と顔を合わせ、一緒に遊べるという安心感を持たせるようにする。



一緒に活動することに関心を 遊んだりするようになる。	日(木)	21日(金)
生を迎える会		身体計測
音楽 をしよう <small>うたっておどってなかよくならう</small>	音楽 手遊びをしよう <small>うたっておどってなかよくならう</small>	音楽 手遊びをしよう <small>うたっておどってなかよくならう</small>
国語 つながること 身体計測のことを知ろ う 着替えよう	体育 つながること 身体計測のことを知ろ う 着替えよう	体育 つながること 身体計測のことを知ろ う 着替えよう
図工 まにこにこ らしいなと思 え思い浮かべ てみよう	行事 身体計測	行事 身体計測
児童会 生を迎える会	体育 体育館で遊ぼう ならびっこ 仲間づくり遊び おにごっこ 着替え	体育 体育館で遊ぼう ならびっこ 仲間づくり遊び おにごっこ 着替え
国語 つながることば 迎える会で楽 しことを話そう	国語 ひとつつながることば 今週の楽しかったこと を話そう	国語 ひとつつながることば 今週の楽しかったこと を話そう
学活 着・後片付けの仕 方	道徳 あいさつ	道徳 あいさつ
5	音楽0.5 体育1.5	音楽0.5 体育1.5
1	行事1	行事1
5	国語0.5 道徳0.5	国語0.5 道徳0.5

1年生の学校生活や学習を月単位で見通し、場面毎に手立てが記載されています。また、月毎のねらいを段階的に設定し、滑らかな接続となるように配慮しています。

5月 マンスリープラン

【今月のねらい】	
<ul style="list-style-type: none"> ○学校生活を楽しみながら、時程に沿った生活ができるようにする。 ○運動会の練習に進んで参加することができるようにする。 	
【指導上の留意点】	
始業前	<ul style="list-style-type: none"> ○連休明けには、教室で児童を迎えあいさつを交わしたり声をかけたりしながら、一人一人の様子をしっかりと見る。 ○自分からあいさつができていない児童をほめるようにする。 ○連絡帳やプリントなどの提出の仕方を継続して指導する。
朝の活動 朝の会	<ul style="list-style-type: none"> ○読み聞かせを行い、落ち着いて人の話を聞く習慣づくりに努める。 ○朝の会の進行の仕方（あいさつ、歌、健康観察、スピーチなど）を指導する。 ○初めての運動会に期待感をもたせ、応援練習やダンスなどの練習に進んで参加できるようにする。
学習等の活動	<ul style="list-style-type: none"> ○発表の仕方や話を聞かされている児童やグループ活動をしたれ合える場を設定する。 ○ひらがなの学習の進める。 ○生活科「学校たんけん」などを指導する。 ○4月の児童の様子をえる。 ○アサガオなどの植物工夫する。 ○すばやく集合したり
休み時間	<ul style="list-style-type: none"> ○時間割に合わせて教 ○遊んだときに使った ○休み時間の交友関係 ○けんかなどトラブル
給食時間	<ul style="list-style-type: none"> ○給食当番の仕方や当 ○衛生面（うがいと手 ○アレルギーについて ○食事のマナーや後片 ○嫌いなものでも少し
清掃時間	<ul style="list-style-type: none"> ○掃除当番は計画的に ○どどの児童にも分 ○清掃分担を確認する
帰りの会	<ul style="list-style-type: none"> ○プリントなどの配布 ○週末に持ち帰るもの ○一人一人の表情に目 ○運動会の練習等で疲 ○下校するよう声がけ
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○運動着・紅白帽子・ ○連休明けなので、子 ○に応じて家庭と連絡 ○授業中の立ち歩きが ○もに、入学時の資料 ○ようにする。

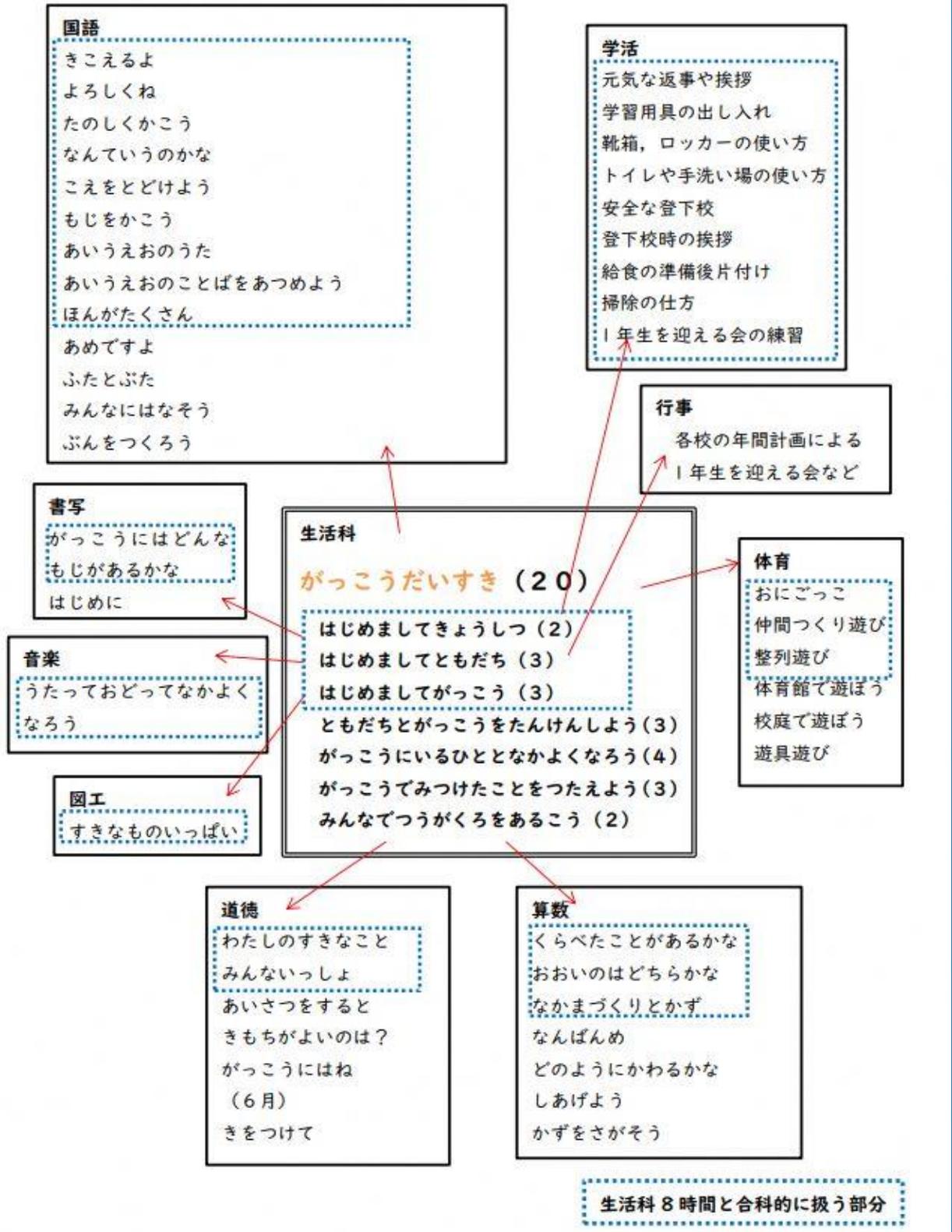
6・7月 マンスリープラン

【今月のねらい】	
<ul style="list-style-type: none"> ○学習ルールを身に付け、落ち着いて学習に取り組むことができるようにする。 ○交友関係や行動範囲を広げることができるようにする。 	
【指導上の留意点】	
始業前	○始業までの過ごし方、連絡帳等の提出、トイレや水道の使い方の指導を継続する。
朝の活動 朝の会	<ul style="list-style-type: none"> ○元氣よくあいさつができていない児童をほめ、その良さに気付かせる。 ○朝の会の進行の仕方を継続して指導する。適切な声の大きさで話すことができる児童をほめ、人前での話し方について知らせる。 ○話をしている人に体を向けて聞くことができるように声がける。 ○蒸し暑さ等でだるさを感じる児童に対して、健康状態をしっかりと把握する。（健康観察時の表情・基本的な生活習慣のチェック・早寝早起き朝ご飯の奨励）
学習等の活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ひらがなや10までの数について読んだり書いたりできているか一人一人の実態把握に努める。 ○児童のノートと同じマス目の黒板を使うなど、児童がどこに何を書けばよいのか分かるようにしてノート指導を行う。 ○授業中の発表のルールを徹底して指導する。 ○鍵盤ハーモニカや絵の具セットの出し方や片付け方、整理の仕方を指導する。 ○水泳学習への興味を高めるとともに、水着の着替え方や水泳後の衣類の後始末の仕方を教室で練習させる。 ○順番やルールを守って活動している児童をほめ、進んで守ろうとする態度を育てる。 ○行動範囲の広がりとともにトラブルも増える時期なので、互いの話をよく聞くとともに、自分の気持ちをしっかりと相手に伝えることができるように指導する。また、攻撃的な口調で友達に接している児童には適切な言葉づかいができるように指導する。 ○友達といっしょに活動したり協力したりする楽しさが分かり、安心して学級の中で活動に取り組めるようにする。
休み時間	<ul style="list-style-type: none"> ○外で遊ぶ機会が増え、けがが増える時期でもあるので、けがをした場合にどのように行動すればよいか指導し、実行できるようにさせる。けがをした場合には教師間で情報を共有し、家庭にも連絡する。 ○雨の日の過ごし方について考えさせ、学校のルールを守れるように声がける。 ○トイレは休み時間のうちに行くように継続して声がける。
給食時間	○マナーを守って残さず食べられるように声がける。
清掃時間	<ul style="list-style-type: none"> ○ほうきの使い方や机と椅子の運び方、床のふき方などをどの児童にも体験させ、教師も共に働きながら丁寧に指導する。 ○清掃分担を確認するとともに、清掃後のうがいと手洗いを確実にを行うように指導する。
帰りの会	<ul style="list-style-type: none"> ○忘れ物をしないよう、次の日の学習予定や持ち物を確実に伝える。 ○通学路を通して下校しているかどうか確認し、飛び出したり危ない歩き方をしたりしないで下校するよう声がける。 ○「いかのおすし」の合言葉などを使って安全指導に努める。 ○週末に持ち帰るもの（白衣や上履き、運動着など）の確認をする。 ○毎日の学校生活が楽しいと感じているかチェックし、次の日の指導に生かす。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○本格的に学習が展開される時期であり、得意・不得意の感情が起こりやすくなるため保護者との情報交換を密にする。 ○音読に重点を置き、学校だけでなく家庭での練習にも進んで取り組めるよう指導方法を工夫する（がんばりカードなど）とともに保護者からの協力も得る。 ○宿題や提出物、学習用具などの忘れ物が目立つ児童の保護者と連絡をとり、忘れ物をしないよう家庭での声かけをお願いする。 ○気温・湿度が高い日は、こまめに水分補給をしたり、タオルで汗をふいたりできるような声掛けをする。

新たに作成した「単元デザイン」です。生活科を中心として各教科を合科的・関連的につなげたり、単元間を関連付けて学習を組み立てたりすることを指導者が視覚的につかみやすくデザインしました。体験から児童の思いが膨らみ、活動が生まれ発展していくように意図をもって関連付けています。

生活科1年 単元デザイン① 4～5月

*体験から児童の思いが膨らみ、活動が生まれ、発展していくように、意図をもって環境構成をしたり、単元間や教科間を関連付けたりする。

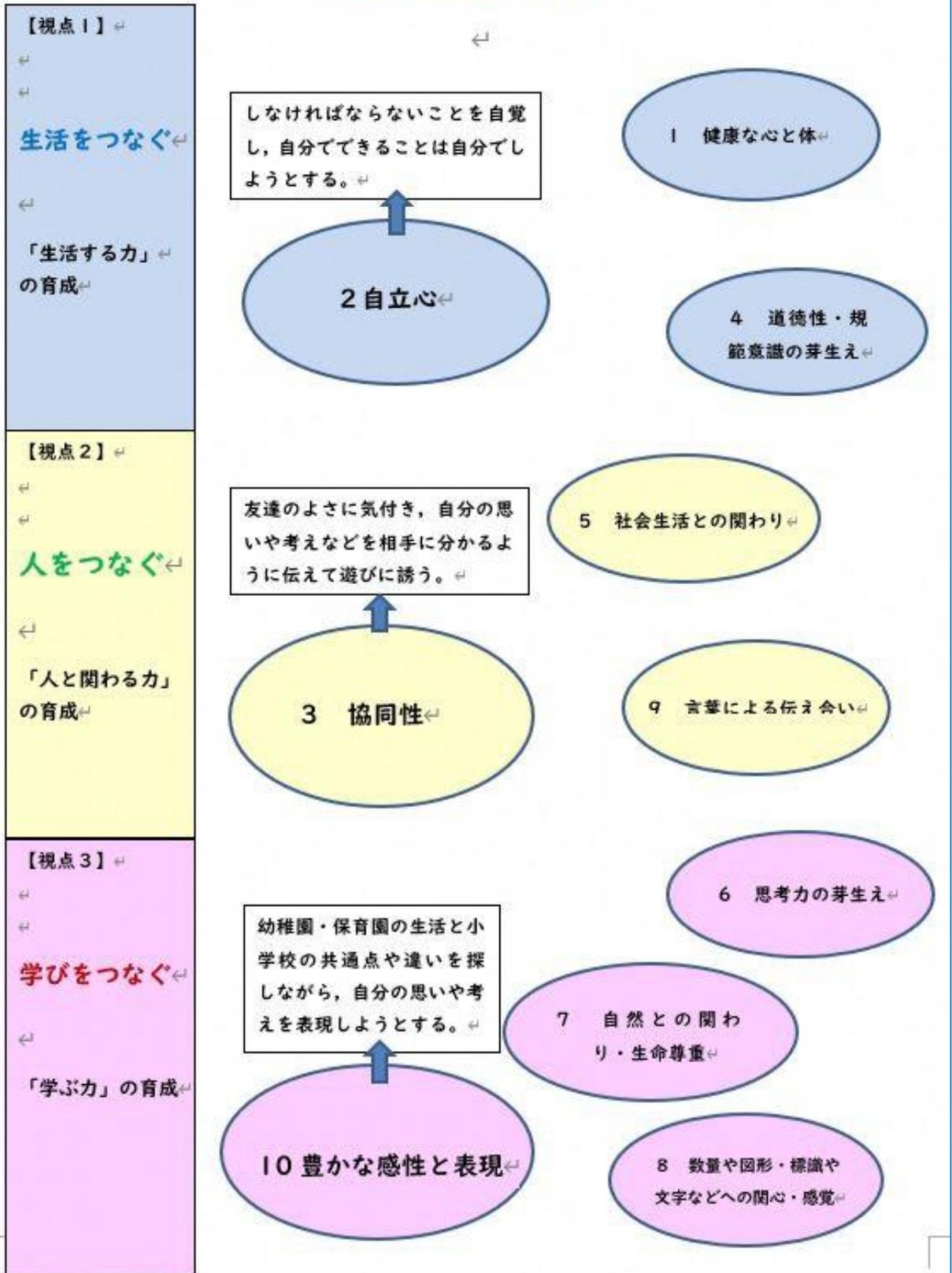


「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とのつながりは、小学校での育ちを就学前施設での育ちと関連付けて見取ることができるようにしています。

生活科 1年

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とのつながり① 4～5月

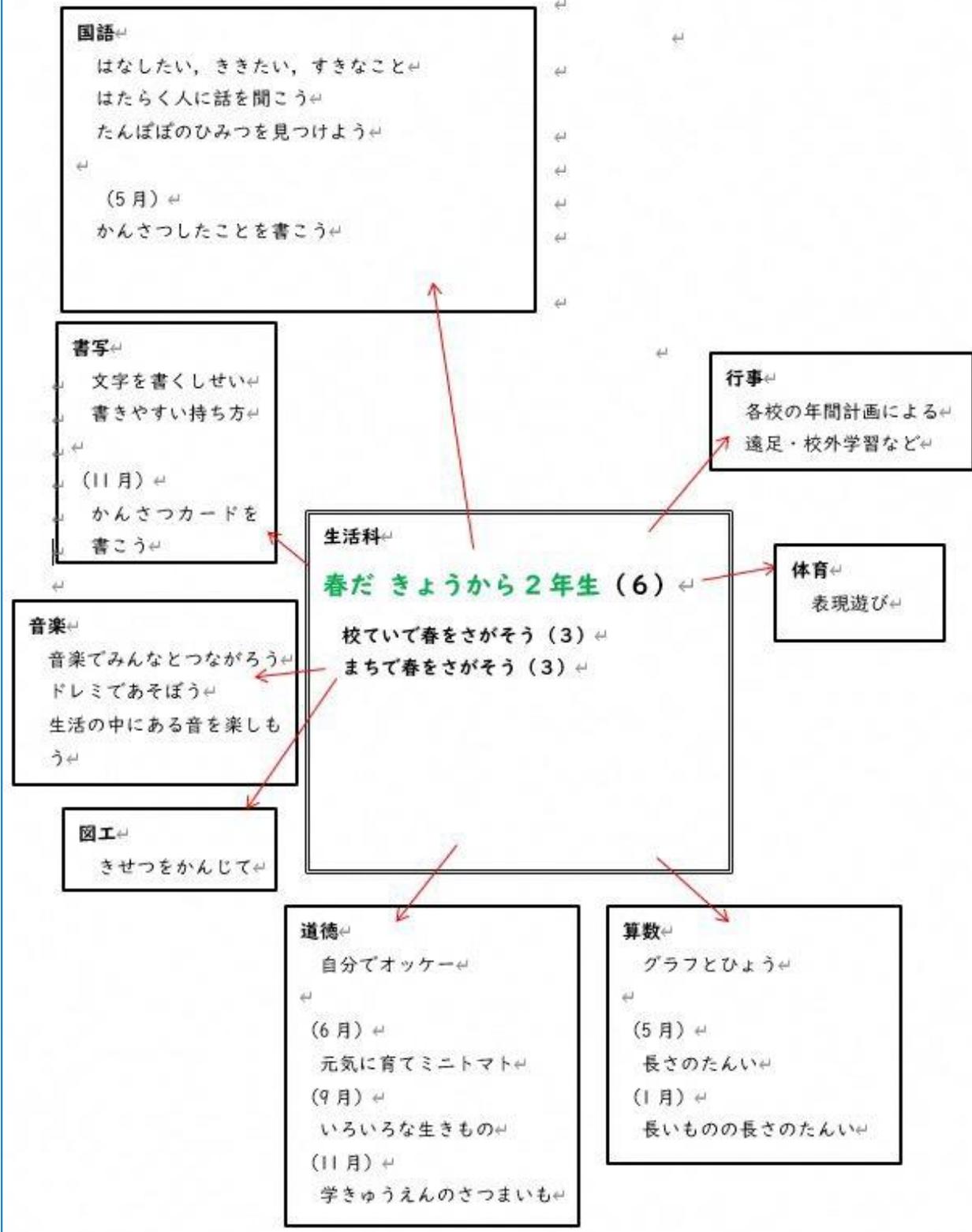
「がっこうだいすき」



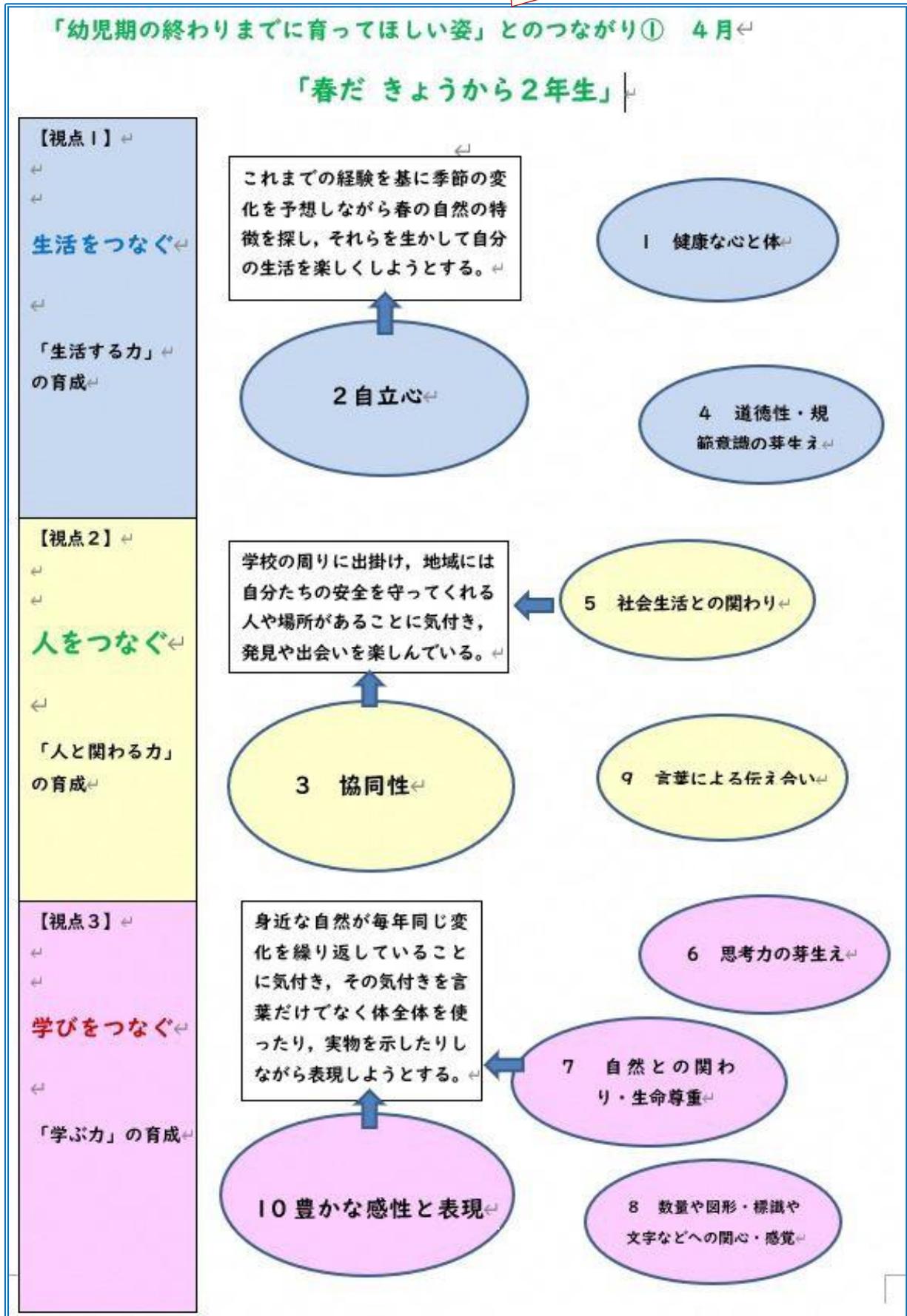
2年生の生活科についても「単元デザイン」を作成しました。これは1年生からの学びの連続性を意識した教育活動が展開できるようにしたものです。

生活科 2年 単元デザイン① 4月

*体験から児童の思いが膨らみ、活動が生まれ、発展していくように、意図をもって環境構成をしたり、単元間や教科間を関連付けたりする。



2年生に進級しても生活科の中に架け橋期カリキュラムのつなぐを意識して作成しています。



各小学校での実践を検討しながら改善を行いカリキュラムに反映させる

幼保小 福岡小学校資料

★国語★



動作化して楽しく内容を理解できるようにする
【例】机を叩く、足踏みをする、教室を歩くなど



活動を何回かに分けて行う
(授業の始めなどに)
【例】お互いにシールを交換しながら自己紹介をする。

★算数★



導入で学習内容の見通しを持たせながら、これまでの経験を共有する
(次時の内容を知らせる時に、事前に関しておくと実態の把握もできる。)

学習したことを実際の生活場面で使う
なんばんめ 教室で座っている時や体育の授業の時に、「2番目の人は立ってください。」などと声を掛けながら既習事項が定着するようにする。

※2とびやらとびの学習をした時には、子供達から「先生が並ぶときに教えるやつだ」と声が上がった。

★道徳★



これまでの経験と関連付けて考えさせ、自分の生活を振り返らせる。→学校でのマナーやルールの定着きもちがよいのは？

教科書の写真を見て、片付けの仕方だけでなくどこを考えたか、自分たちの整理整頓の仕方について振り返りをさせた(お道具袋の中、廊下の荷物の掛け方、教室のロッカー)。「ロッカーから水筒の紐が出ていると危ないし、掃除の時邪魔になるよね」と声を掛けると、「ぼくの園では、水筒に紐を巻き付けることによって先生から教わった」といいう声が上がりました。

★生活科★

がっこうだいすき

6年生と学校探検
(福岡小学校のルールなどを教えてもらう)

みんなでどんな教室や部屋があったか共有
↓
学校地図へ書きこむ(教室名)
↓
先生方へインタビューにいく計画を立てる
(どんな仕事をしているのか他に、どんなことを聞いてみたいかをペアで考える)

発表会を行う
↓
インタビューして分かったことを学校地図に貼る
(好きな食べ物や動物などインタビューしたことに関する絵)

全体での学習のあと、興味関心に応じて学習を継続できる環境を整える。
【例】学校地図を子供の手の届く高さに掲示する。画用紙やペンなどを置いておき、子供が自分で追加してけるようにする。

他の教科で学習したことを生かす。
【例】発表の事前指導では、国語で学習した「こえをとどけよう」を思い出させ、発表するときの声の大きさなどを考えさせた。

保育体験の時に、園の先生から聞いた子供たちの活動経験をもとに、学習内容を考えました!

環境に配慮した小学校の実践

10月3日 2年生生活科

あきのおもちゃさんの たのしさを1年生につたえたいな!

- ・たのしいことを わかってもらうために、1年生に あそんでもらおうよ。
- ・ほいくえんの子たちが あそびやすいように、あそびをくふうしたんだよ。
- ・ならばせるときにも、ぎゅうぎゅうに ならないようにしてあげるといいよ。
- ・なんかないも あそびたくなるように、あそびをかんたんにしすぎないほうがいいよ。ちょっとむずかしいほうが、「もう1かいやりたい!」ってなるんだよ。



ドキュメンテーションを見ながらどう展開していくか話し合う。

次年度の1、2年生への参考資料としても活用する

白石市教育委員会 小中連携の学びの連続性における全体構想

中学校までの学びの連続性を意識した取組を行うため、小学校3年生から中学校3年生までの全体構想をモデル中学校区で作成しました。
 「学びをつなぐ」「人をつなぐ」「生活をつなぐ」の3つの視点と関連させながら、小中学校での学びの連続性が一覧できるように作成しています。

福岡中学校区で育てたい子供の姿と学びの連続性							
小学校	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
教科等 ● 生活 ● スタ ● 元活 ● 計画 ● 中心 ● とし ● た ● キ ● ュ ● ラ ● ム	主体的・対話的で深い学び（個別最適な学び・協働的な学び）						
	・AIドリルを活用し、自らの学習状況に応じた課題に粘り強く取り組むことができる。 ・ペアやグループ等、他者との対話を通して考えを交流させ、認め合いながら学習することができる。						
・自らの興味・関心に応じた課題や学習活動を設定・選択し、進んで学習に取り組むことができる。 ・教師や児童同士、他校の児童等との関わりや体験を通して多様な考えに触れ、よりよい学習へと発展させることができる。							
・各教科において、「主体的」「対話的」「深い学び」の視点を踏まえたテーマのもと、生徒自身が自らの学習を調整し、粘り強く取り組むことができる。また、ICT機器の特性を理解し、多様な教育コンテンツやHCEITを課題解決や思考、交流、表現等の場に応用することができる。 ・AIドリルを積極的に活用し、知識・技能の定着を図る。授業の導入では既習事項の確認、展開では演習問題や発展問題への挑戦、終末では適用問題として取り組む。また、授業だけでなく「学びタイム」でも活用する。							
書く視点を整理して、条件に合わせて自分の考えを書く活動を設定する。（小中連携：全国学力・学習状況調査の課題を基にした授業改善の視点）							
学びをつなぐ 総合的な学習の時間 深谷小	○福岡を知ろう ○いろいろな人を知ろう（福祉） ○ふるさとのめぐるみを行います ・米作りの計画を立てよう ・米について調べよう ・収穫祭をしよう ○伝統文化を伝えよう	○白石の産業を知ろう ○10年後の自分をみつめよう ○ふるさとのメッセージ ・ふるさとを知ろう ・古典芸能に親しもう ・認め合おう ○伝統文化を伝えよう	○リーダーに向けて ●宿泊体験学習に向けた探究的な学習（長く大切にされてきた蔵王の自然） ●東日本大震災について探り、防災について考える学習 ○伝統文化を伝えよう	○福祉の未来を考えよう ●修学旅行に向けた探究的な学習（白石市・会津若松市の歴史） ●卒業に向けて、これからの自己の生き方を考える学習 ○伝統文化を伝えよう	○防災教育と地域の現状と課題 ・防災教育を通して、地域との関わりを学ぶ。 ・共に助け合って生きる共生社会と自己の生き方を考える。 ・地域の視点で社会貢献や共生について考え、共生社会の担い手としての意識を高める。	○進路選択に向かって ・職場体験を通して、働くことの大切さを理解する。 ・共に助け合って生きる共生社会と自己の生き方を考える。 ・自分の将来に夢や希望を抱き高を立て、目的意識を持った生き方を考える。 ・高校の先生方からの説明を聞き、進路決定や自己実現のために生かす。	○志の実現を目指して ・将来、自分の歩む道についての展望を持つ。 ・自己の個性や能力を生かし、主体的に進路を選択する。 ・防災教育を通して、地域の一員として災害時に主体的に行動できる実践力を身に付ける。
	協同から協働へ ～人との関りや協働の喜びを実感する～						
人をつなぐ P4C 志教育	・p4cの約束を守り、安心して話せる環境の中で関いに対する考えや思いを伝え合ったり、自分とは異なる意見からも新たな気づきを得たりすることができる。 ●元気に過ごし、しっかり学ぶために、ゲームやテレビ、スマホはどのように使えばよいか。	・自分たちで立てた関いについて自分の考えをもち、多様な意見を受け入れ、尊重する姿勢で思いを伝え合うことを通して自らの考えを深めることができる。 ●自己の生活習慣を振り返り、問題点を見いだす。自律した自分に近づくために必要なことは何か。	・自分たちで立てた関いについて自分の考えをもち、多様な意見を受け入れ、尊重する姿勢で思いを伝え合うことを通して自らの考えを深めることができる。 ●自己の生活習慣を振り返り、問題点を見いだす。自律した自分に近づくために必要なことは何か。	・セーフティを確立することで、よりよい人間関係を築くことができる。 ・自分たちの関いを大切に、主体的に学ぶ力、関いを高めることができる。 ・互いに顔を見て話すことで、対話的に学ぶ力、コミュニケーション力、深く考える力を高めることができる。 ●自律や自己実現を果たすために、メディアコントロールの必要性と難しさ等について、実際の事例や事件から関いを立てる。	・物づくりの学習を通して作成した作品を各小学校へ届け、作品に込めた思いを伝える。	・自己を肯定的に捉え、他者を理解し尊重しようとする。 ・より良い人間関係を築く力や、豊かな社会性を身に付ける。 ・人間関係の大切さを理解し、信頼し合える学級作り努める。 ・学習や体験活動を通して、より良い生き方を求めることができる。 ・目標実現に向けて、最後まで粘り強くやり抜くこととする。 ・目標達成に向けて、最後まで粘り強くやり抜くこととする。	・自己を肯定的に捉え、他者を理解し尊重しようとする。 ・より良い人間関係を築く力や、豊かな社会性を身に付ける。 ・人間関係の大切さを理解し、信頼し合える学級作り努める。 ・学習や体験活動を通して、より良い生き方を求めることができる。 ・目標達成に向けて、最後まで粘り強くやり抜くこととする。
	自立から自律へ ～主体的に行動し、自分らしさを発揮する～						
生活をつなぐ 生活習慣 小中連携 小中交流	●「学び・生活のスタンダード」（学校生活・学習・生活の約束） ●生活リズムチェック/「ルブル」ふれあいウィーク（健康な生活習慣の確立） ●インターネット安全教室（外部講師による情報・ネットリテラシー教育）				・メディア（ゲーム・スマホ等）の使用を家族で話し合い、使う時間等を決め、コントロールする。 ・コントロールして生み出された時間を、家庭学習や家族とのふれあい等に利用する。		
	・福岡体験学習(嵐王)				・修学旅行(会津若松) ・福岡中学校区小中交流会		
	学びノート家庭学習の手引き				福岡中学校区3校交流会（福岡中学校説明・授業見学・部活動体験）		
福岡中学校吹奏楽部演奏披露（福岡小/深谷小：学習発表会）							